

令和4年度神奈川県精度管理調査免疫学的検査・免疫血清学における  
文章問題の評価修正について(お詫び)

令和4年度に実施いたしました精度管理調査免疫学的検査・免疫血清学における文章問題(評価対象外)の問3につきまして、「明確な解答をすることが困難である」とのご指摘をいただきました。内容を再度確認したところ、本文章問題において、解答を明言している文献等を確認することができませんでした。そのため、本文章問題において解答を示すことが困難であると判断し、「不適切問題(正解なし)」に変更させていただきます。

対象となるご施設の皆様には、多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

記

- 当該精度管理調査：令和4年度免疫学的検査・免疫血清学
- 当該項目：文章問題(評価対象外) 問3
- 対応措置：評価基準の回答結果を「参考」として修正いたしました。
- 【該当の問題】

問3. 免疫比濁法(TIA法)では散乱された光の強度と粒子(凝集塊)には下記のような関係がある。この式は、被験物質の濃度が高いほど散乱光強度(≒吸光度)が増大することを意味している。

$$\text{散乱光} = I_0 \times (N \times V^2 \text{乗}) / (\gamma^2 \text{乗} \times \lambda^4 \text{乗})$$

$I_0$ ：入射光強度、 $N$ ：粒子数、 $V$ ：粒子容積、 $\gamma$ ：距離、 $\lambda$ ：波長

正解：正しい

【修正】

正解：正しい→**不適切問題(正解なし)**

【理由】

今回、本問題を作成した経緯ですが、

- ・ネフェロメーター(免疫ひろう法)→直接、散乱光強度を捉えている。
- ・TIA法(免疫比濁法)→通過光強度の減衰(⇒濁度≒吸光度の増強⇒散乱光強度の増強)を捉えている。

とのことより、「散乱光の強度の増強=被験物質濃度高値」に関しては、免疫ひろう法だけではなく、免疫比濁法に関して適応されると判断し、回答としては「正しい」という内容で問題文を作成いたしました。

しかし、各種、免疫ひろう法・免疫比濁法（TIA 法）に関する文献を再確認したところ、「散乱光強度＝免疫ひろう法」という内容のものが大半であり、「TIA 法＝散乱光強度を測定する」と明確にしている文献が見つからず、本問題については明確な回答をすることが困難であったことが判明いたしました。そのため、本問題に関しては「不適切問題（正解なし）」と変更させていただきたいと思います。

日臨技精度管理システム(JAMTQC)内の評価について修正させていただきましたので、ご確認のほどよろしくお願いいたします。

また、本案内は、評価対象外のため、既に配布されている評価に影響はございませんので、今回のご案内と掲載になった事をご理解とご了承を賜りますようお願い申し上げます。

以上

問い合わせ先

横浜市立大学附属市民総合医療センター 臨床検査部 村上 直樹

Tel : 045-253-5750 (直通)、e-mail : venrou@yokohama-cu.ac.jp